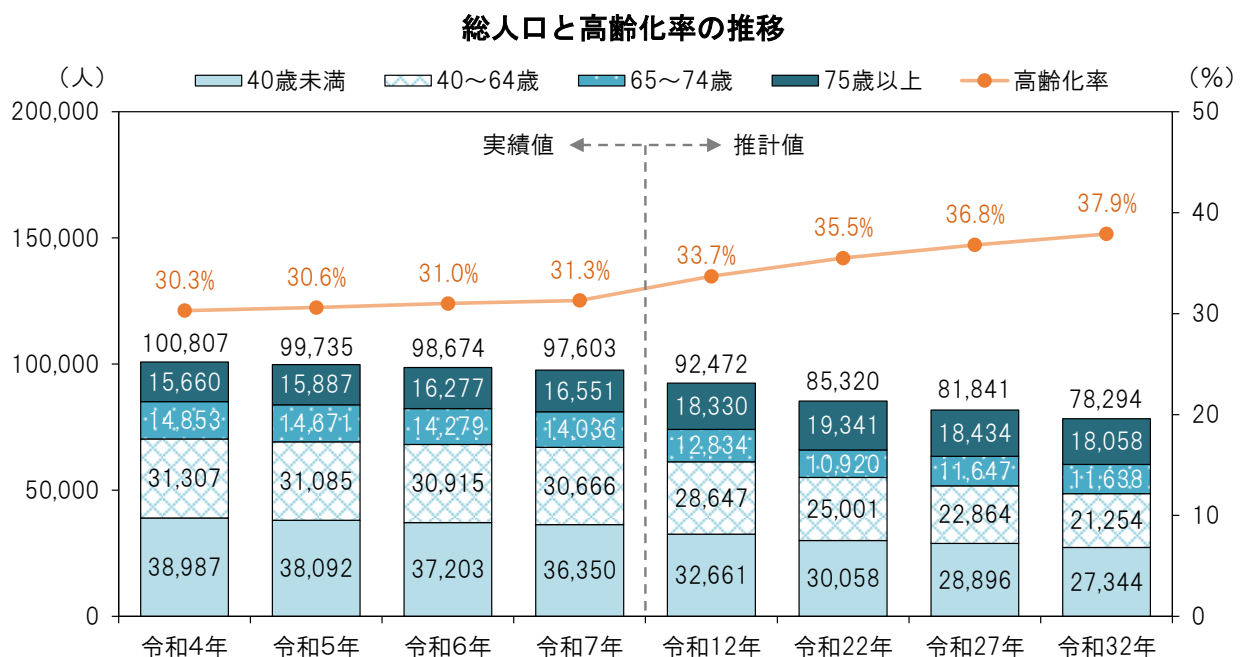


統計データによる現状分析 《高齢者の状況》

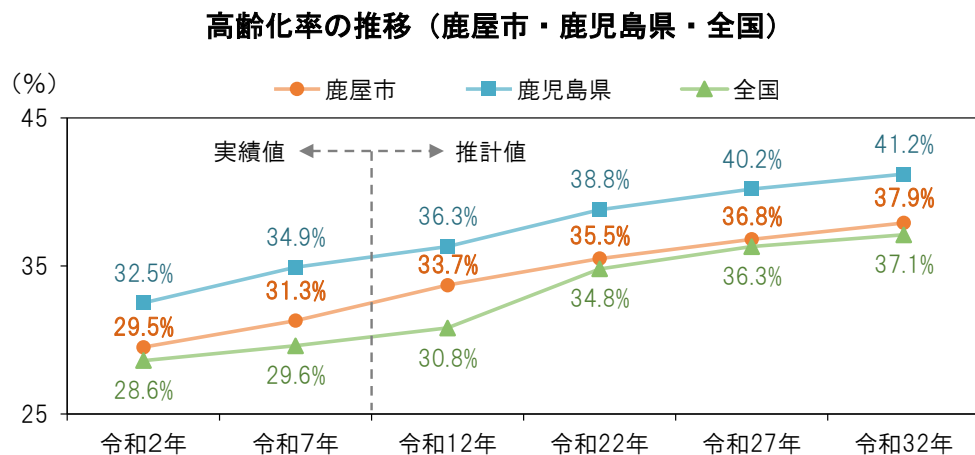
1. 総人口と高齢化率の推移

本市の総人口は年々減少し令和7年には97,603人となっています。今後も減少し続ける見込みですが、75歳以上の人口は増加しており、令和32年には高齢化率が37.9%になる見込みです。

高齢化率を県・国と比較すると、県よりは低く、国よりは高くなっています。



出典：住民基本台帳（各年10月31日現在）、推計は国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口（都道府県・市区町村）」



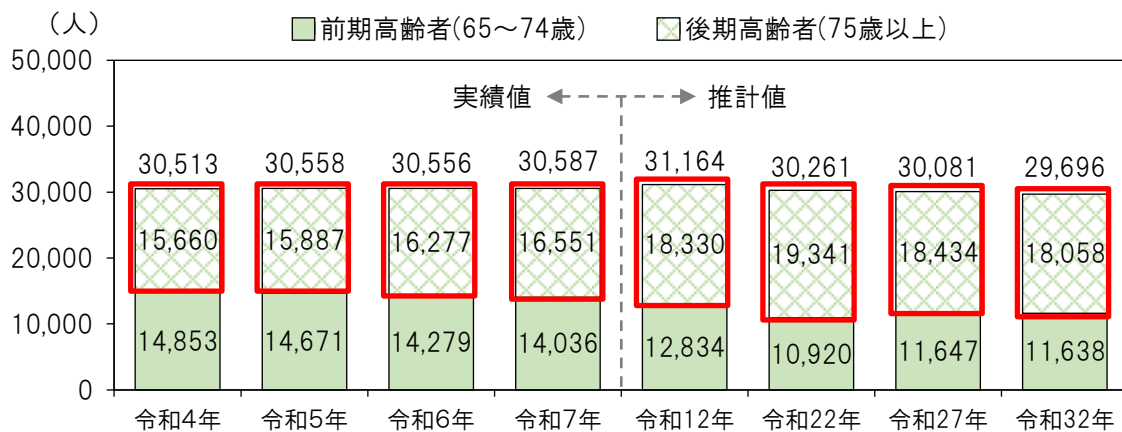
出典：鹿屋市の令和2年・令和7年は住民基本台帳、鹿屋市の推計と鹿児島県は「日本の地域別将来推計人口（都道府県・市区町村）」、全国は国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口（全国）」

2. 高齢者人口と3年齢別の推移

65歳以上の人口は令和12年にピークを迎え31,164人となる見込みです。前期高齢者は令和4年以降減少傾向にあります。後期高齢者は令和22年にピークとなる見込みです。

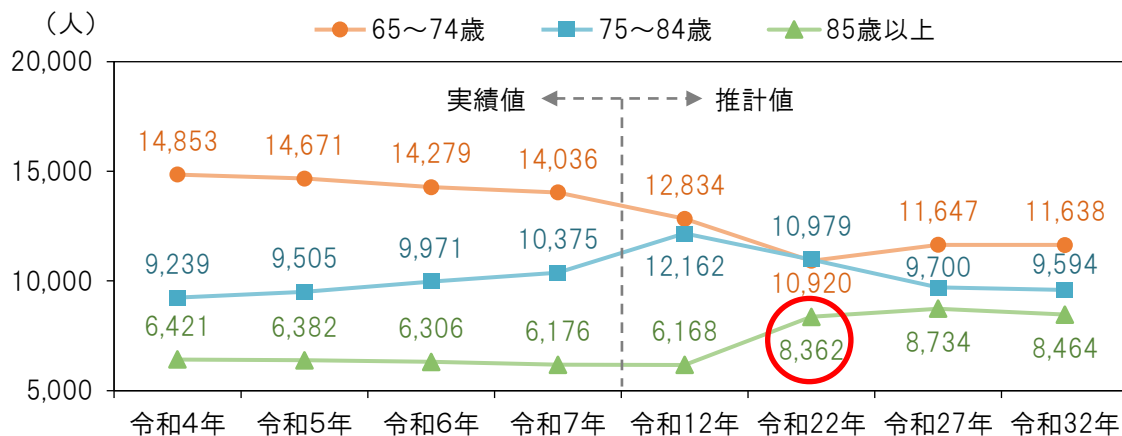
3年齢別の推移をみると、75～84歳は令和12年をピークに減少に転じ、85歳以上は令和12年まで横ばいで推移し令和22年から急増する見込みです。

前期・後期高齢者の推移



出典：住民基本台帳（各年10月31日現在）、推計は国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口（都道府県・市区町村）」

高齢者人口の3年齢別の推移



出典：住民基本台帳（各年10月31日現在）、推計は国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口（都道府県・市区町村）」

3. 高齢者世帯の状況

本市の状況をみると、平成27年から令和2年の5年間で、高齢者のいる世帯数は1,235世帯増加しており、そのうち、一人暮らし世帯が半数以上の745世帯の増加となっています。

県・国と比較すると、令和2年における一人暮らし世帯の割合は県・国より高く、国の29.6%と7.9ポイントの差があります。

一人暮らし世帯の3年齢別内訳をみると、平成27年から令和2年の5年間で85歳以上が475世帯（4.2ポイント）増加しています。

高齢者世帯の状況（鹿屋市・鹿児島県・全国）

単位：世帯

		平成27年		令和2年		世帯数の増減 (R2－H27)
		世帯数	割合	世帯数	割合	
鹿屋市	一般世帯数	44,720	100.0%	45,969	100.0%	+1,249
	高齢者のいる世帯数	18,063	40.4%	19,298	42.0%	+1,235
	一人暮らし世帯	6,490	35.9%	7,235	37.5%	+745
	高齢夫婦世帯※	6,326	35.0%	6,710	34.8%	+384
	その他世帯	5,247	29.0%	5,353	27.7%	+106
鹿児島県	一般世帯数	722,372	100.0%	725,855	100.0%	
	高齢者のいる世帯数	311,133	43.1%	324,685	44.7%	
	一人暮らし世帯	110,741	35.6%	119,020	36.7%	
	高齢夫婦世帯	100,929	32.4%	108,442	33.4%	
	その他世帯	99,463	32.0%	97,223	29.9%	
全国	一般世帯数	53,331,797	100.0%	55,704,949	100.0%	
	高齢者のいる世帯数	21,713,308	40.7%	22,655,031	40.7%	
	一人暮らし世帯	5,927,686	27.3%	6,716,806	29.6%	
	高齢夫婦世帯	6,079,126	28.0%	6,533,895	28.8%	
	その他世帯	9,706,496	44.7%	9,404,330	41.5%	

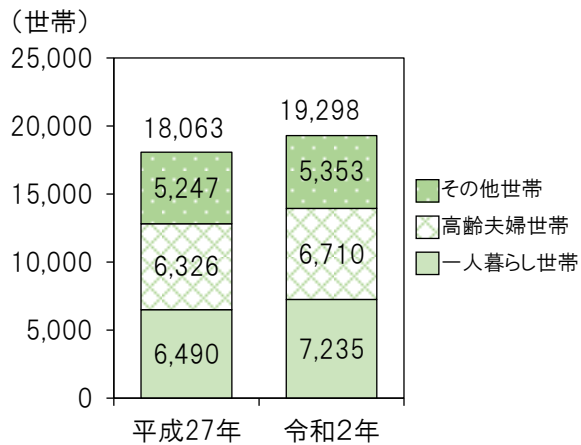
※高齢夫婦世帯とは、夫が65歳以上で妻が60歳以上の夫婦のみの世帯

※「高齢者のいる世帯数」の割合は一般世帯数に占める割合

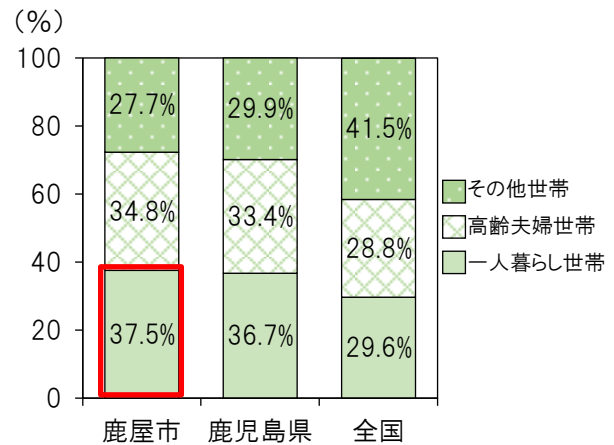
※「一人暮らし世帯」「高齢夫婦世帯」「その他世帯」の割合は高齢者のいる世帯数に占める割合

出典：国勢調査

高齢者世帯の推移（世帯数／鹿屋市）



高齢者世帯の割合の比較 （令和2年／鹿屋市・鹿児島県・全国）



出典：国勢調査

高齢者の一人暮らし世帯の3年齢別内訳

単位：世帯

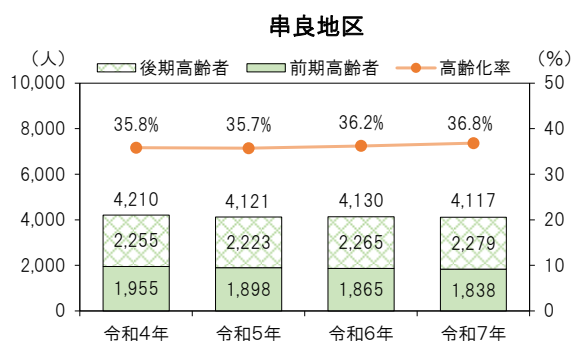
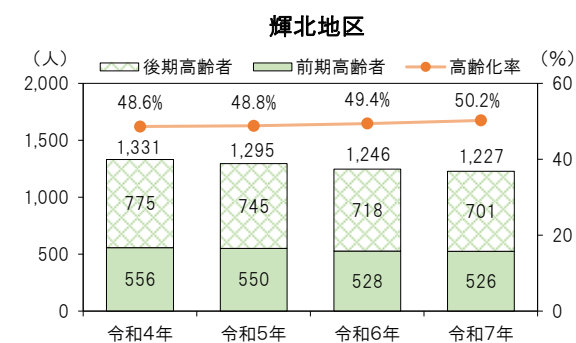
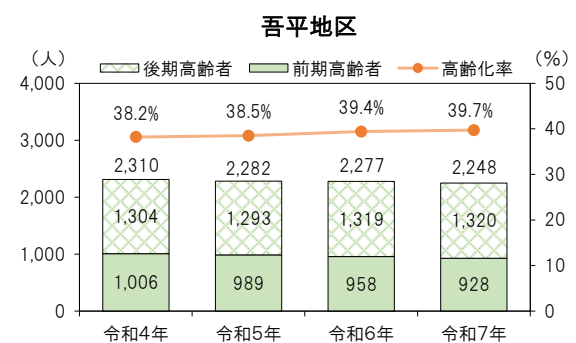
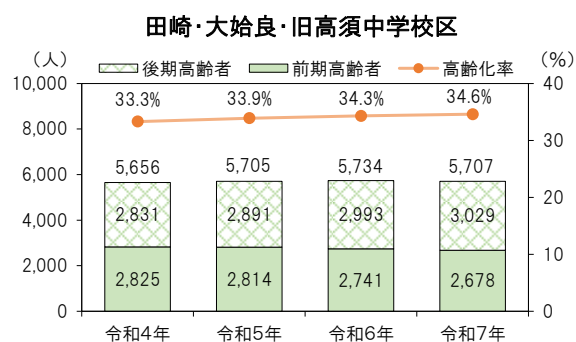
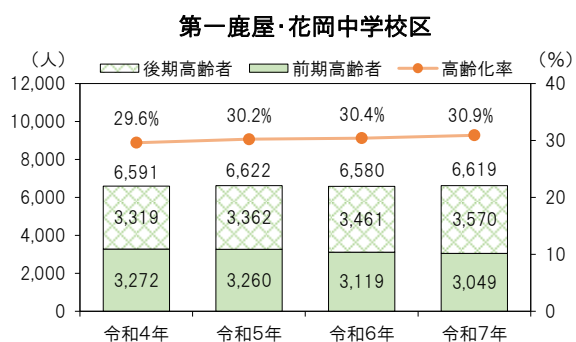
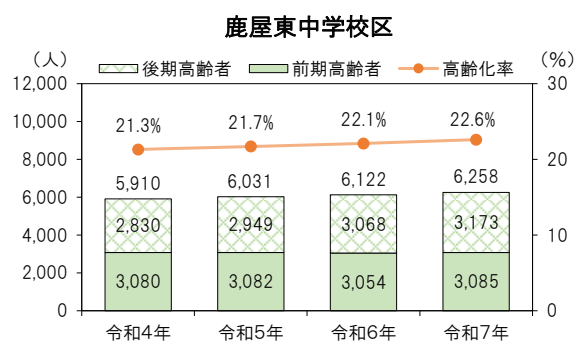
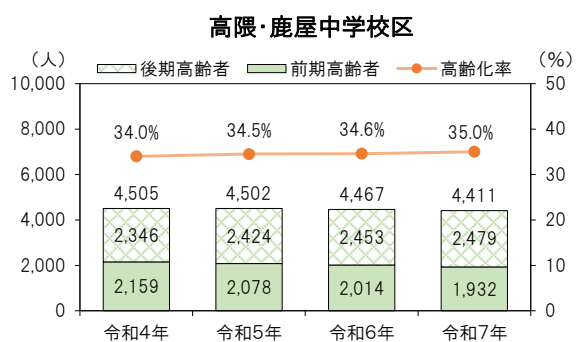
	平成27年		令和2年		世帯数の増減(R2－H27)	
	世帯数	割合	世帯数	割合	世帯数	割合(ポイント)
一人暮らし高齢者世帯数	6,490	100.0%	7,235	100.0%	+745	±0.0
65～74歳	785	12.1%	891	12.3%	+106	+0.2
75～84歳	4,216	65.0%	4,380	60.5%	+164	-4.5
85歳以上	1,489	22.9%	1,964	27.1%	+475	+4.2

出典：国勢調査

4. 日常生活圏域別の高齢化の状況

日常生活圏域別にみると、高齢者数は「鹿屋東中学校区」で増加傾向がみられます。高齢化率はおおむね2～3程度で横ばいとなっていますが、「吾平地区」「串良地区」では約4割、「輝北地区」では約5割と高くなっています。

日常生活圏域別の高齢化の状況



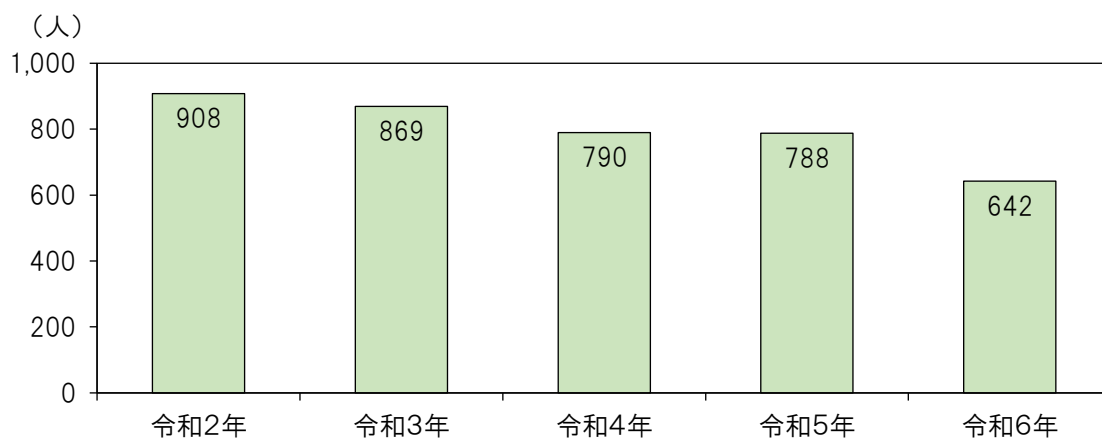
出典：住民基本台帳（各年10月31日現在）

5. 出生数・死亡数の推移

出生数は年々減少し、令和6年は令和2年の約7割となっています。

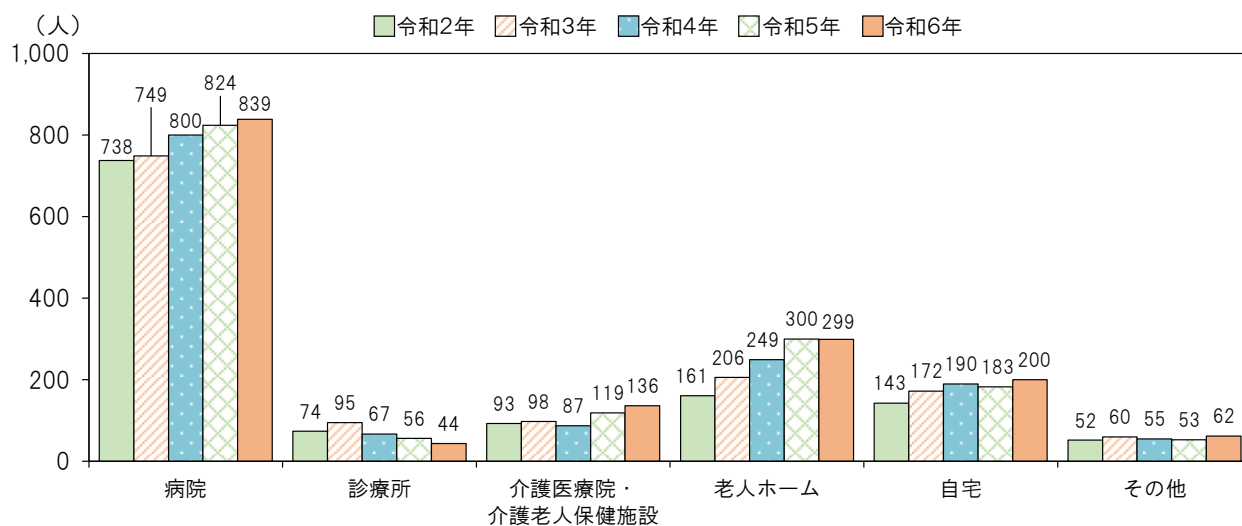
死亡数を場所別にみると、「病院」「老人ホーム」が増加傾向にあります。

出生数の推移



出典：人口動態統計

死亡数の推移（死亡場所別）



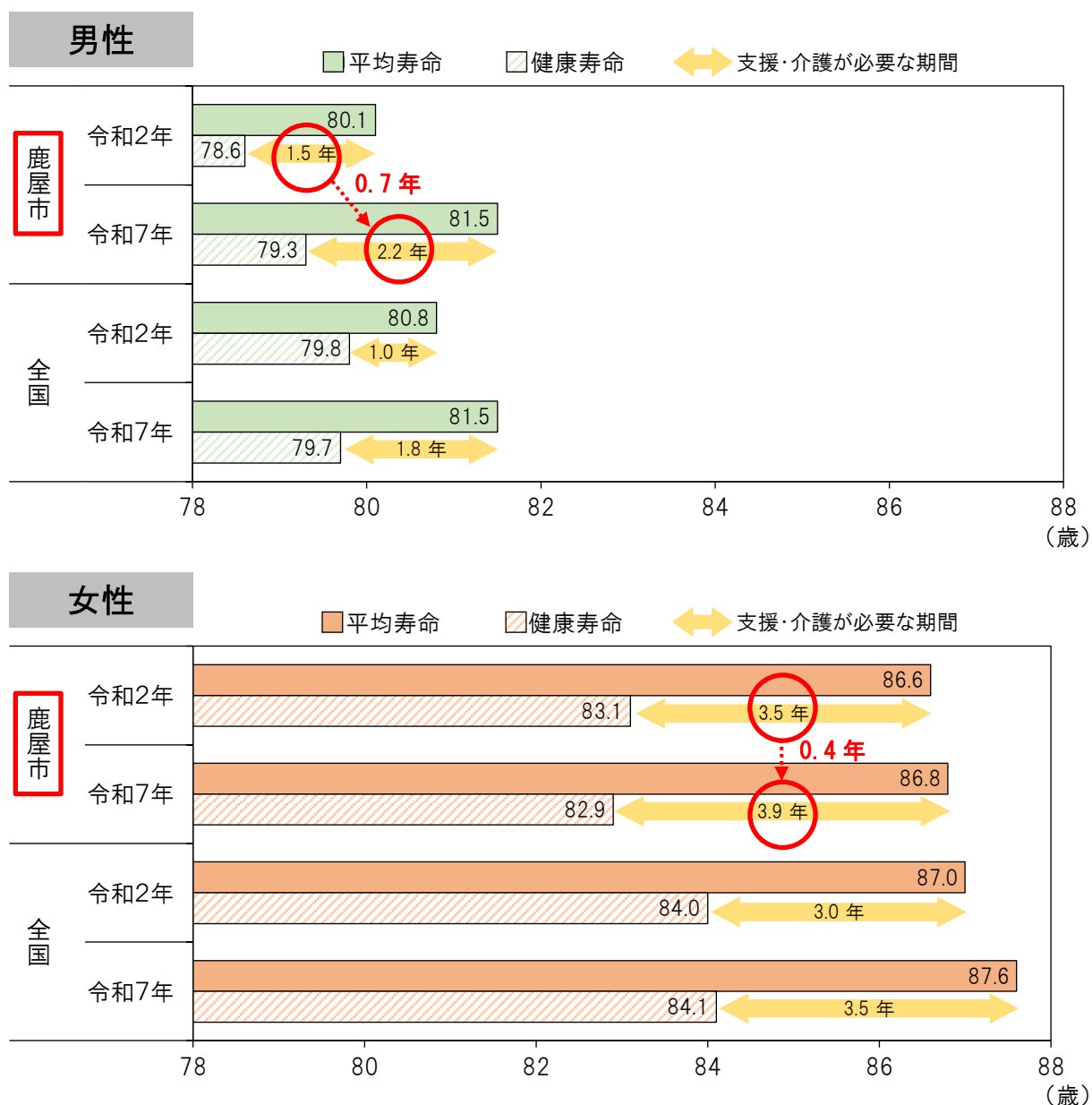
出典：人口動態統計

6. 平均寿命と健康寿命※の状況

平均寿命を令和2年と令和7年とで比較すると、男性は1.4年延びていますが、女性はほぼ横ばいとなっています。性別でみると、女性は男性より長く、令和7年では5.3年の差があります。

平均寿命と健康寿命の差である「支援・介護が必要な期間」は、令和7年において、男性は2.2年、女性は3.9年であり、女性は令和2年より0.4年長くなっています。

平均寿命と健康寿命（鹿屋市・全国）



出典：国保データベースシステム（KDB システム）

※健康寿命：国保データベースシステム（KDB システム）における「平均自立期間」（要介護2未満の日常生活動作が自立している期間の平均）

7. 要介護認定者数等の推移

① 要介護認定者数

近年の状況は、認定者数はゆるやかな減少傾向で令和7年度には5,668人となっています。

要介護度別でみると、「要介護1」は令和元年度以降増加傾向にありましたが、令和6年度には減少に転じています。また、重度要介護（要介護4～5）については、一貫して減少傾向にあります。一方、「要介護2」は令和2年度をピークに減少傾向にありましたが、令和6年度では再び増加に転じています。

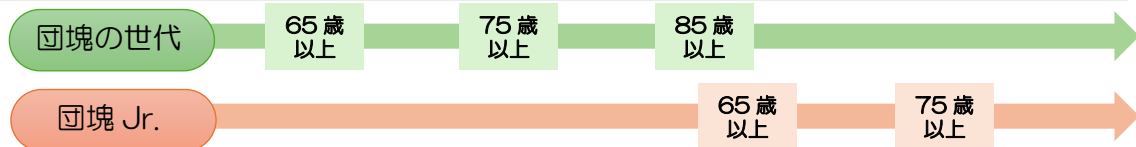
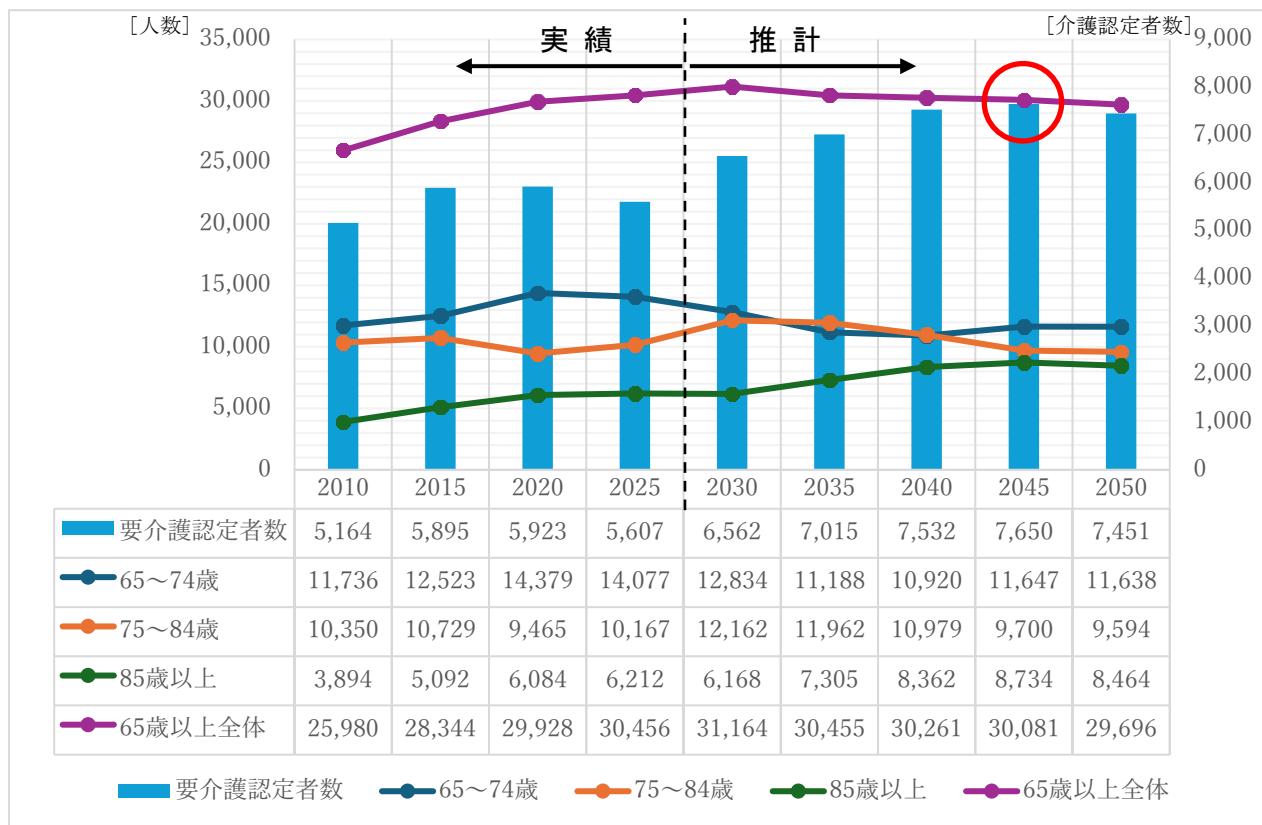
要介護認定者数の推移（要介護度別）



出典：地域包括ケア見える化システム（各年3月末、令和7年度は令和8年3月末時点）

高齢者人口と要介護認定率を比較すると、今後、全体の高齢者人口は減少傾向ですが、要介護認定者数は2045年まで増加すると見込まれます。

要介護認定者数と高齢者人口の推移



出典：2010～2020：国勢調査 ※2025：人口統計（住基人口）

2030年以降：国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口（令和5（2023）年推計）」

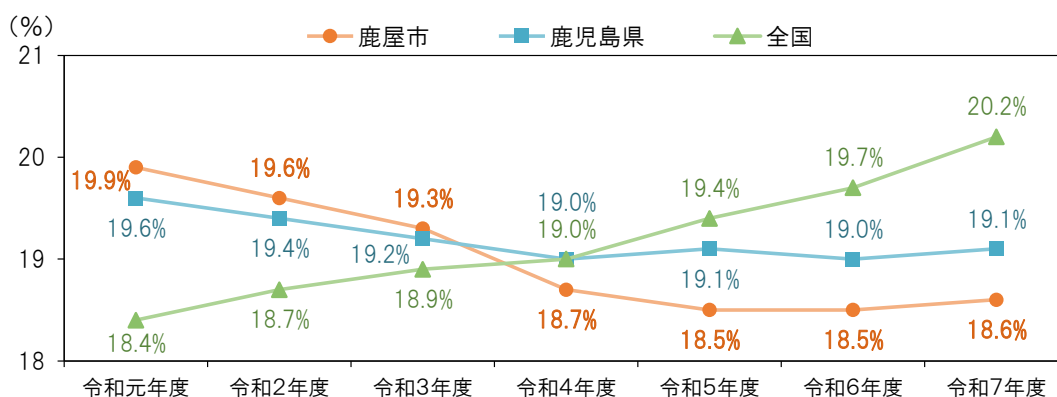
② 要介護認定率

要介護認定率は、令和6年度まで減少傾向にありましたが、令和7年度から増加傾向へ転じています。

県・国と比較すると、令和4年度以降は県・国を下回っています。

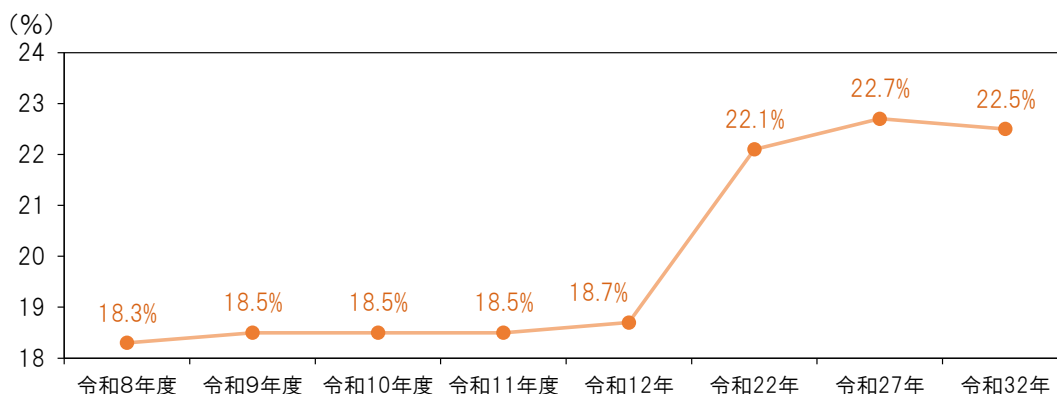
状態別を県・国と比較すると、軽度は低く、中重度は高くなっています。

要介護認定率の推移（鹿屋市・鹿児島県・全国）



出典：地域包括ケア見える化システム（各年3月末、令和7年度は令和8年3月末時点）

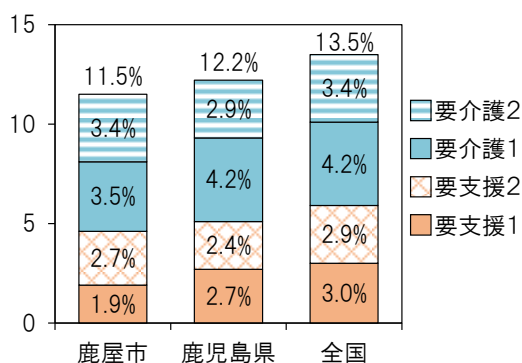
要介護認定率の見込み



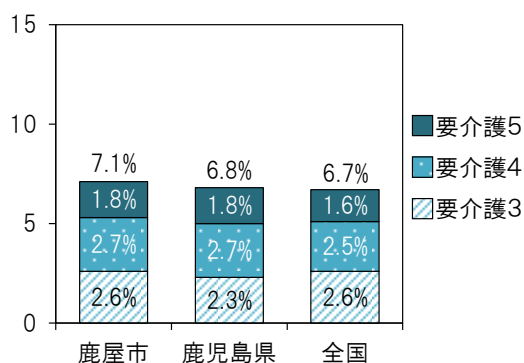
出典：地域包括ケア見える化システム

状態別の要介護認定率（鹿屋市・鹿児島県・全国）

(%) 軽度(要支援1～要介護2)



(%) 中重度(要介護3～要介護5)



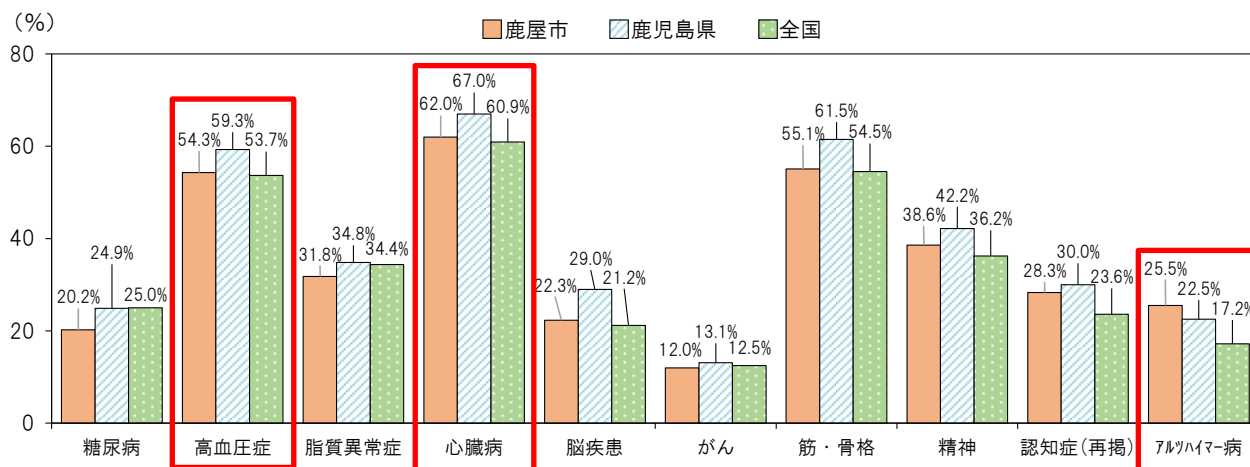
出典：地域包括ケア見える化システム（令和8年3月末時点）

8.介護と医療の重複利用の状況

介護認定者の有病状況は、「高血圧症」「心臓病」「筋・骨格」が5割を超えています。また、「アルツハイマー病」が県・国より高くなっています。

医療費の令和7年度をみると、認定あり・なしとも令和2年度に比べ増加しています。また、認定あり・なしとも県より低く、国より高くなっています。

介護認定者の有病状況（令和7年度）



出典：国保データベースシステム（KDB システム）

医療費の推移（要介護認定あり・なし）

単位：円

	令和2年度			令和7年度		
	鹿屋市	鹿児島県	全国	鹿屋市	鹿児島県	全国
認定あり	10,023	11,351	10,144	10,676	12,611	10,640
認定なし	5,791	5,966	5,412	6,025	6,164	5,627

出典：国保データベースシステム（KDB システム）

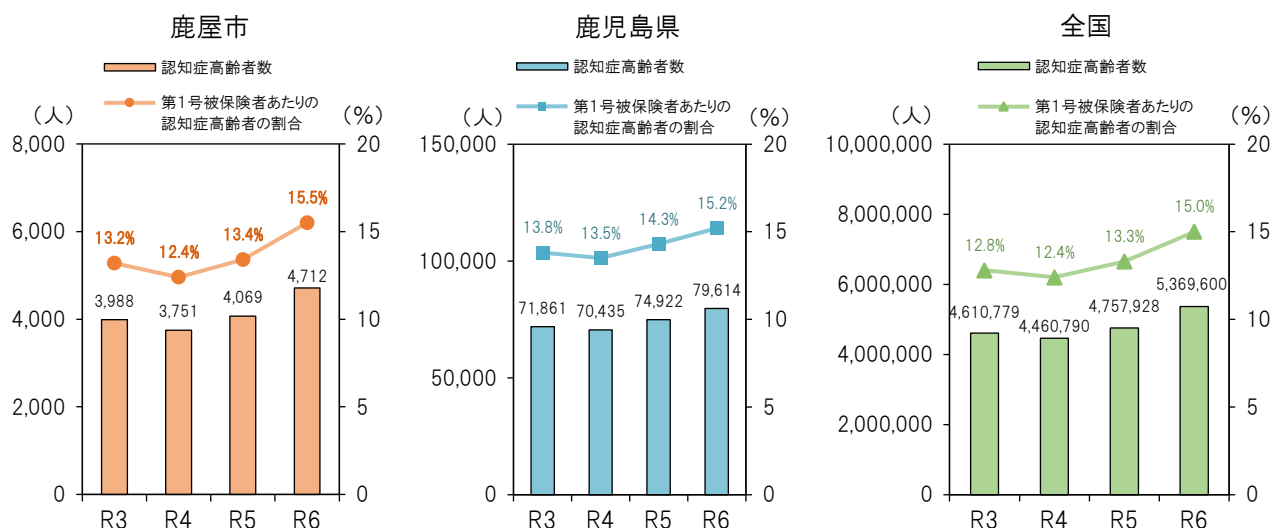
9. 認知症高齢者数の推移

認知症高齢者数は、令和4年度に減少したものの令和5年度以降は増加傾向にあり、県・国においても同様の推移となっています。

今後は、要介護認定者数と認知症高齢者数は同様に2045年まで増加していく見込みです。

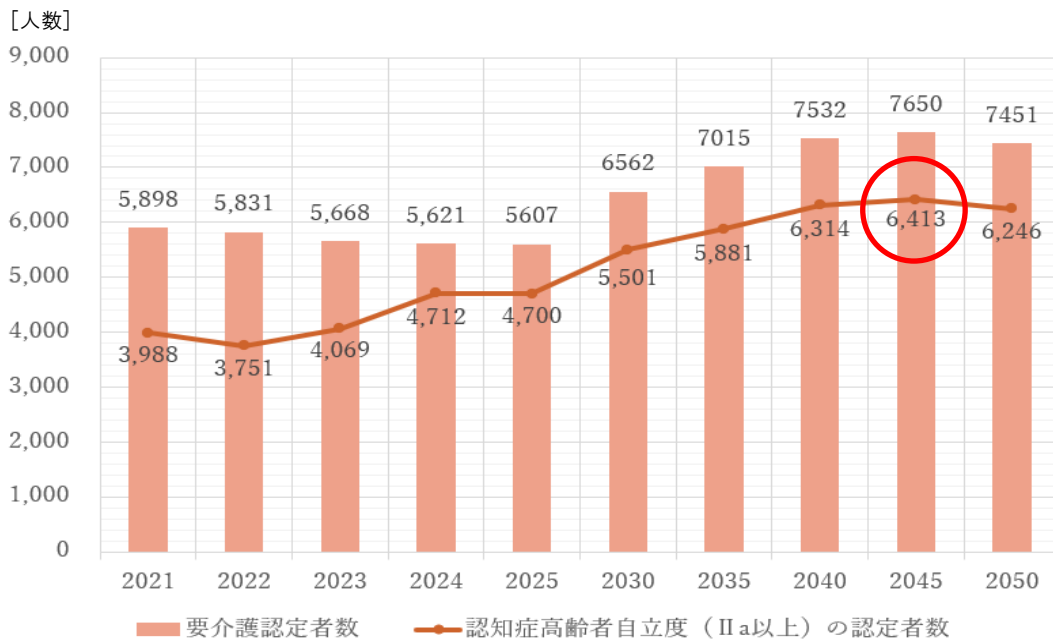
認知症高齢者数の推移（鹿屋市・鹿児島県・全国）

（認知症高齢者自立度（Ⅱa以上）の認定者数）



出典：地域包括ケア見える化システム（各年10月）

認知症高齢者の状況（認知症高齢者自立度（Ⅱa以上）の認定者数）



※認知症高齢者自立度別の認定者数

2024年以前：見える化システム（厚生労働省 介護保険総合データベース）

2025年以降：要介護認定者数推計値・2024年認知症高齢者自立度（Ⅱa以上）認定者数割合を用いて推計

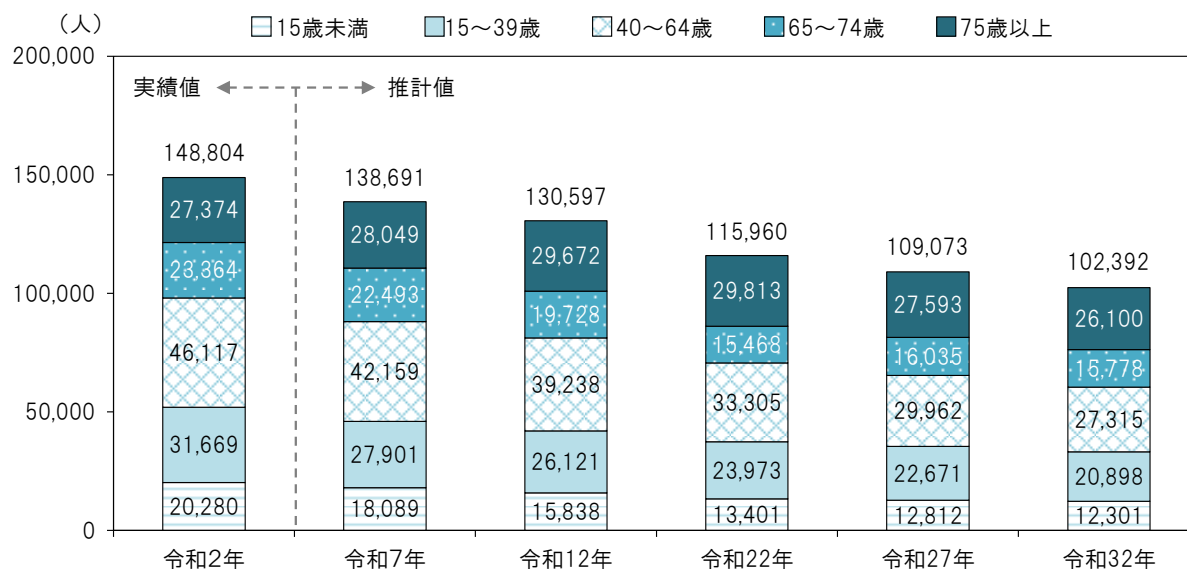
10. 肝属地区の状況

肝属地区において、令和22年では総人口は約12万人に減少しますが、75歳以上の人口は増加する見込みです。

令和7年の入院医療需要は、「在宅医療等の進展を促す」ことで、慢性期が約1割減少する見込みです。必要な病床数は、2015年の実病床数2,414床から3割弱減少した1,730床です。在宅医療等需要は2035年頃まで増加する見込みです。

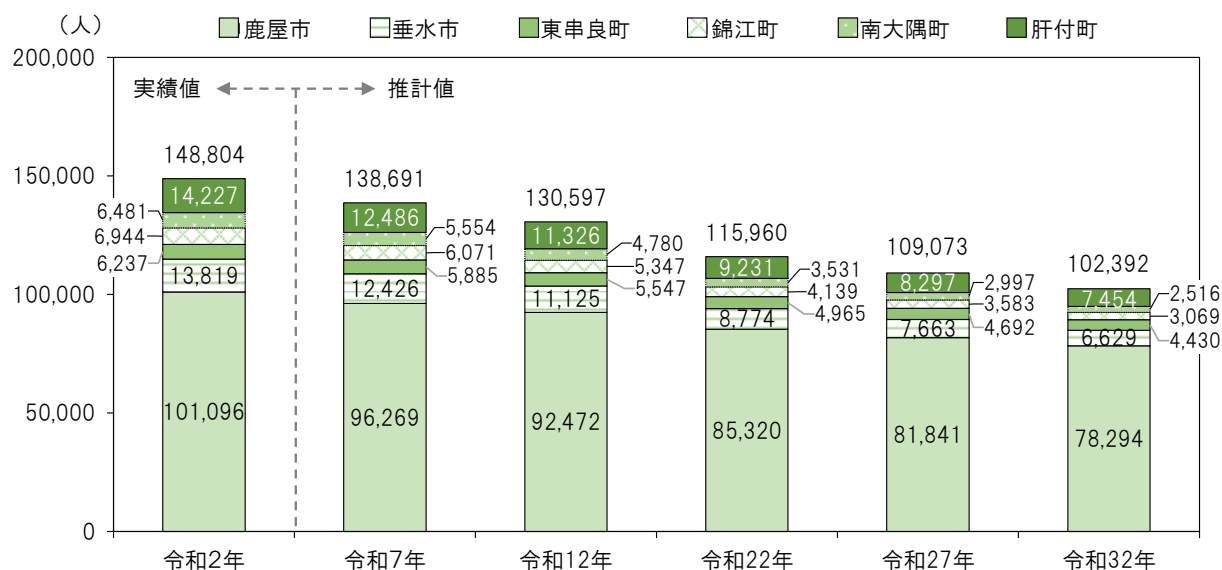
脳卒中と急性心筋梗塞は圏内で対応していますが、がんは約4割が圏域外へ流出しています。

肝属地区の人口の推移（年齢区分別）



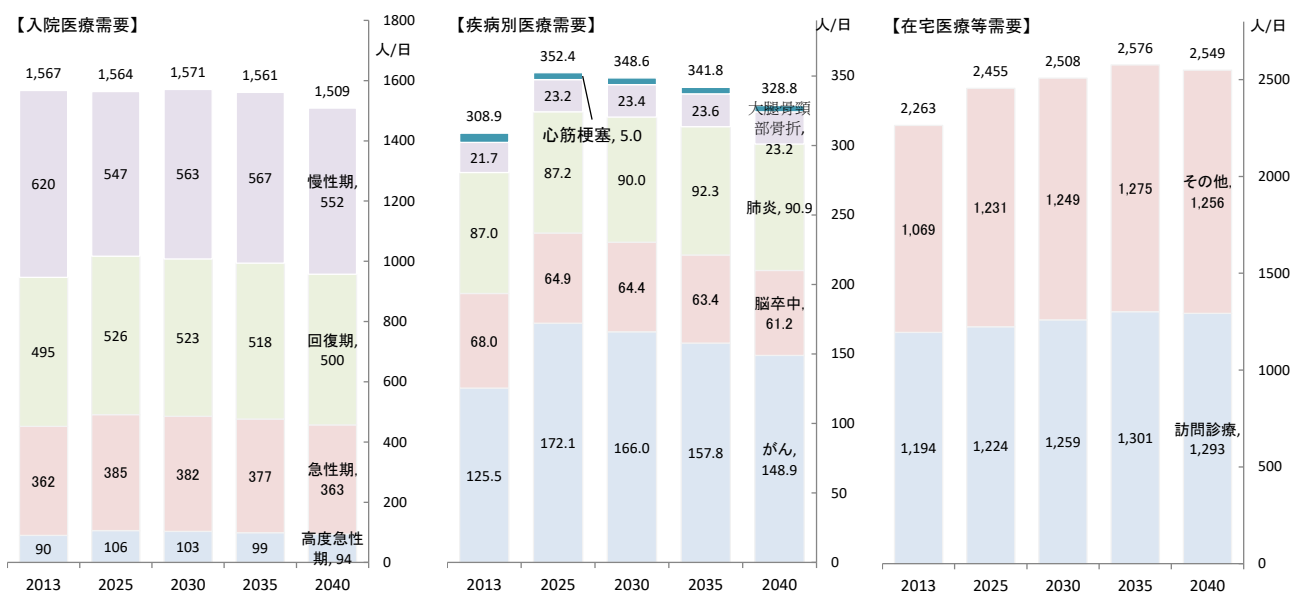
出典：国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口 令和5（2023）年推計

肝属地区の人口の推移（地域別）



出典：国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口 令和5（2023）年推計

肝属医療圏における将来の病床の必要量等



出典：肝属保健医療圏地域医療連携計画（H31.3）